

雨にも
ケロツと!

野菜等の病害防除には

ベンレート[®] 殺菌剤 水和剤



ベンレートは住友化学(株)の登録商標です。

いろいろな野菜につかえる。
いろいろな病害でつかえる。



甘藷



メロン



アスパラガス



レタス



馬鈴薯



トマト



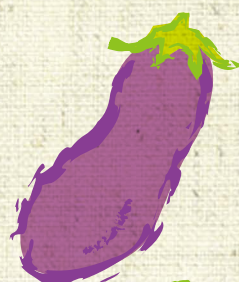
玉葱



キャベツ



豆類(種実)



茄子



胡瓜



白菜



豆類(未成熟)



葱



西瓜



苺

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ベノミルを含む 農薬の総使用回数*					
きゅうり	菌核病 灰色かび病 炭疽病 黒星病 つる枯病 つる割病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (種子への処理は1回、 は種後は3回)					
	定植前~定植1ヶ月後											
うり類 (漬物用)	炭疽病	1000倍	150~300mℓ/株	定植前~45日前	2回	灌注	3回 (種子粉衣は1回、 は種後は2回)					
ズッキーニ	菌核病 つる枯病	3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)					
すいか	つる枯病 菌核病 炭疽病	2000~3000倍										
メロン	菌核病											
かぼちゃ	白斑病											
なす	半萎凋病	500倍	200~300mℓ/株	定植後~14日前	3回	土壌灌注	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)					
		1000倍	400~600mℓ/株									
	黒枯病 灰色かび病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a									
菌核病 褐紋病 フザリウム立枯病	2000倍	前日		散布								
甘長とうがらし	炭疽病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)					
ピーマン	うどんこ病 斑点病 炭疽病											
トマト	萎凋病	1000倍	150~300mℓ/株	定植前~定植1ヶ月後	2回	灌注	6回 (種子への処理は1回、 灌注は2回、 散布及び常温煙霧は合計5回)					
	菌核病	2000倍	100~300ℓ/10a	前日	5回	散布						
ミニトマト	葉かび病 灰色かび病	2000~3000倍					150~300mℓ/株	定植前~定植1ヶ月後	2回	灌注	6回 (種子への処理は1回、 灌注は2回、 散布は3回)	
	萎凋病 菌核病	1000倍 2000倍										
ねぎ	葉かび病 灰色かび病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	6回 (種子への処理は1回、 灌注は2回、 散布は3回)					
	萎凋病							1000倍	150~300mℓ/株	定植前~定植1ヶ月後	2回	灌注
	菌核病							2000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布
小菌核腐敗病	100~200倍	—	定植直前	5分間苗根部浸漬 30分間苗根部浸漬								
わげぎ	小菌核腐敗病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm, 使用土壌約5ℓ) 当り500mℓ	定植前	1回	灌注	3回 (種子粉衣は1回、 苗根部浸漬及び 灌注は合計1回、 散布は1回)					
	小菌核腐敗病	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	30日前	1回	散布						
たまねぎ	萎凋病	500倍	—	植付前	1回	30分間種球浸漬	1回					
	乾腐病	50倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm, 使用土壌約5ℓ) 当り500mℓ~1ℓ	定植前	1回	灌注	8回 (種子粉衣は1回、 育苗培土混和、 灌注または 苗根部浸漬は合計1回、 散布は6回)					
		100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm, 使用土壌約5ℓ) 当り500mℓ									
		1g/1kg培土 20倍	—					は種前 移植直前	育苗培土混和 3分間苗根部浸漬			
	灰色腐敗病 灰色かび病 黒かび病	2000~3000倍 2000倍	100~300ℓ/10a	前日	6回	散布						
らっきょう こんにゃく	乾腐病	500倍 50~100倍	—	植付直前 植付前	1回	30分間種球浸漬 種いもの芽基部に散布 10~30分間苗根部浸漬 1~3時間苗根部浸漬	1回					
いちご	炭疽病 萎黄病	500倍	50~100mℓ/株	仮植前	3回	灌注	9回 (種子粉衣は1回、 苗根部浸漬は1回、 育苗期の灌注は3回、 本圃定植後の灌注は1回、 散布は3回)					
	炭疽病 萎黄病		100mℓ/株	本圃定植後 但し、30日前	1回							
豆類 (未成熟、ただし、 えだまめ、さやいんげん、 さやえんどうを除く)	菌核病	2000倍	100~300ℓ/10a	30日前	3回	散布	6回 (種子粉衣は1回、 灌注は2回、 散布は3回)					
	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回	灌注						
えだまめ	菌核病 紫斑病	2000倍	100~300ℓ/10a	30日前	3回	散布						
	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回	灌注						
さやいんげん	菌核病 角斑病	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫開始14日前まで	3回	散布						
	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回	灌注						
さやえんどう	菌核病	2000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布						
	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回	灌注						



2024年3月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数*			
豆類 (種実、ただし、 だいず、いんげんまめ、 えんどうまめ、 らっかせいを除く)	菌核病	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	14日前	4回	散布	5回 (種子粉衣は1回、 は種後は4回)			
	だいず			菌核病 紫斑病				前日		
いんげんまめ	黒根腐病	乾燥種子重量の0.5%	—	は種前	1回	種子粉衣				
	菌核病 角斑病	1000~2000倍 1000~1500倍	100~300ℓ/10a	7日前	4回	散布				
えんどうまめ	菌核病 褐斑病	1000~2000倍		14日前						
	らっかせい	褐斑病 黒渋病		2000~3000倍				7日前		
レタス		そうか病 茎腐病		2000倍				14日前		
	アスパラガス	菌核病 灰色かび病 すそ枯病		2000~3000倍				前日	2回	2回
しょうが		茎枯病 株腐病		2000倍				21日前		
	てんさい	いもち病 褐色しみ病		1000倍				4回	4回	4回
かんしょ		褐斑病		2000~4000倍			—	植付前	1回	30分間苗浸漬
	基腐病	500~1000倍		20~30分間苗浸漬						
	つる割病			種いも重の0.4%						種いも粉衣
	黒斑病		500~1000倍	20~30分間苗基部浸漬						
	黒斑病		500~1000倍	株元灌注						
ばれいしょ	つる割病	1000倍	20~40ml/株	挿苗時	3回	散布	1回			
	斑点病	1000倍	100~300ℓ/10a	7日前	1回	種いも粉衣				
やまのいも	黒あざ病	種いも重の0.3~0.4%	—	植付前	3回	散布	4回 (植付前までの処理は1回、 植付後は3回)			
	炭疽病 葉渋病	2000倍	100~300ℓ/10a	前日	1回	種いも粉衣	1回			
さといも(葉柄) なたね	乾腐病	種いも重量の0.5%	—	催芽前	2回	散布	2回			
	菌核病 根朽病	1000~2000倍 2000倍	100~300ℓ/10a	3日前	3回	散布	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)			
ブロッコリー	2000~4000倍	7日前								
カリフラワー	菌核病	2000倍	6回	7日前	6回	散布	7回 (種子粉衣は1回、 は種後は6回)			
キャベツ	菌核病 根朽病	2000倍	100~300ℓ/10a	21日前	1回	散布	2回 (種子粉衣は1回、 散布は1回)			
非結球あぶらな科葉菜類 (みずな、 チンゲンサイを除く) みずな チンゲンサイ	炭疽病 白斑病	4000倍	14日前							
	はくさい	白斑病 菌核病 炭疽病	2000~3000倍	7日前	2回	3回	3回 (種子粉衣は1回、 は種後は2回)			
ほうれんそう しそ(花穂)		2000倍	3ℓ/m ²	21日前				灌注		
つるむらさき パセリ	菌核病	1000倍	100~300ℓ/10a	14日前	3回	散布	3回			
	立枯病		3ℓ/m ²	45日前				灌注		
セネガ	黒根病	1000倍	30日前	3回	3回	2回				
ふき	葉枯病	2000倍	100~300ℓ/10a	7日前	2回	散布	2回			
せんぶり	さび病	2000倍	100~300ℓ/10a	前日	12回(1年間に6回)	散布	12回(1年間に6回)			
とりかぶと(薬用)	白絹病	種いも重量の0.4%	—	植付前	1回	種いも粉衣	1回			
しゃくやく(薬用)	根黒斑病	20倍 500倍	—	植付前	1回	10分間苗基部浸漬 16時間苗基部浸漬	11回			
	灰色かび病	1000倍	14日前	10回(1年間に2回)	散布	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)			
みょうが(花穂)	いもち病	2000倍	100~300ℓ/10a	3日前	3回	散布、但し花穂の発生期には マルチフィルム被覆により 散布液が直接花穂に 飛散しない状態で使用する	3回			
みょうが(茎葉)				みょうが(花穂)の収穫3日前まで 但し、花穂を収穫しない場合に あつては開花期終了まで		散布				
みつば	菌核病	種子重量の0.5% 500倍	—	は種前	1回	種子粉衣	1回			
せんきゅう	黒色根腐病	160倍	—	植付前		24時間種子浸漬				
かのこそう	半身萎凋病	500倍	—	定植前	30分間種球浸漬	30分間苗浸漬	1回			
うど	菌核病	500倍	—	28日前	30分間種球浸漬	30分間種球浸漬				
たらきの	芽枯症	1000倍	—	28日前	1回	駒木瞬間浸漬	1回			

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。
※野菜以外の水稻・果樹・花等にも登録があります。



2024年3月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ベノミルを含む 農薬の総使用回数*
野菜類 とうもろこし	フザリウム菌 による病害	乾燥種子重量の 0.16%	—	は種前	1回	種子処理機による 種子粉衣	1回
オクラ	葉すず病	3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)

適用場所	作物名	適用病害名	使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ベノミルを含む 農薬の総使用回数*
温室、ガラス室、 ビニールハウス等の 密閉できる場所	きゅうり	灰色かび病	150g/10a	5ℓ/10a	前日	3回	常温煙霧	4回 (種子への処理は1回、 は種後は3回)
	トマト					5回		6回 (種子への処理は1回、 灌注は2回、 散布及び常温煙霧は合計5回)

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。
※野菜以外の水稲・果樹・花等にも登録があります。



使用上の注意事項<抜粋>



- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- きゅうり、トマトに対して灌注処理する場合は、誤って高濃度で処理すると、退色や生育抑制等の薬害を生じることがあるので、所定濃度を守ってください。
- なすの半萎凋病に対して灌注処理する場合は、定植前及び定植時処理では葉の黄化、生育抑制等の薬害を生じるおそれがあるので定植後に処理してください。
- たまねぎ、いちごに対して苗根部浸漬処理する場合は、誤って高濃度で処理すると、いちごでは活着不良、たまねぎでは、初期生育遅延等の薬害のおそれがあるので、使用方法を厳守してください。
- いちごの萎黄病防除に使用する場合は、特に多発地では植付前の土壌くん蒸と本剤処理とを組み合わせるとより有効です。
- こんにゃくの乾腐病防除に使用する場合は、種芋の芽基部を上に向けて並べ、散布液が芽基部に十分かかるように1㎡当り100mℓ散布してください。
- かんしょの基腐病に使用する場合は、苗全体が薬液に浸かるように処理してください。
- ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は、下記の注意事項を守ってください。
 - ①煙霧用として使用する場合は専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。
特に常温煙霧装置の設定及び使用に当っては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
 - ②作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉してください。
- 本剤及び同系統の薬剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った例があるので過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる薬剤を組み合わせ使用してください。
- 本剤はエトフェンブロックス乳剤またはダイアジノン乳剤と混用した場合、凝固物を生成するため混用をさけてください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 本剤で処理した種子等は食料や動物飼料として用いないでください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
施設内に水産動植物を飼っている水槽等を置かないでください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器・空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

2365(24-3)